

町内会長

自主防災部長

保存版

次期役員に申し送りください。

『安心・安全で住みよいまち

仁和

』

仁和学区防災まちづくり計画



平成 27 年 5 月

仁和学区防災まちづくり協議会

*** 仁和学区防災まちづくり計画の構成（目次） ***

1. はじめに	P.1
---------	-----

2. 仁和学区の概要	P.2
------------	-----

3. 防災まちづくりの目標と基本的な方針	P.5
目標	基本的な方針
安心・安全で住みよいまち 仁和	道に関すること ①災害に強い道づくりを進めましょう ②避難しやすい道づくりを進めましょう
	建物に関すること ①災害に強い家づくりを進めましょう ②空き家に関する取組を進めましょう
	オープンスペースに関すること ①既存の空き地をうまく活用しましょう ②まちなかに広場を増やしましょう
	コミュニティに関すること ①災害時の対応を共有しましょう ②地域のコミュニティをしっかり築き、みんなで支え合いましょう
	まち + コミュニティ ①仁和らしさを大切にし、住みやすいまちにするためのルールをつくりましょう

4. 具体的な取組	P.6
4-1 学区全体計画	P.6
4-2 エリア別計画	P.13

5. 実現に向けて	P.25
-----------	------

6. 資料編	P.28
--------	------

1. はじめに

(1) 防災まちづくりの背景

私たちが暮らす仁和学区は、七本松通や御前通、仁和寺街道、下立売通などの主要な道路が格子状に貫き、その町割の中に古くからの路地や町家、寺院などが数多く残り、京都らしい歴史的な風情をたたえています。

一方で、細街路（幅員4m未満の道）や袋路（行き止まりの路地）が多い、古い木造家屋が密集する、公園や広場が少ないなど、密集市街地ならではの防災上の課題を抱えており、地震時等には建物倒壊や火災が生じるなど、大きな被害が予想されます。

防災まちづくりは、密集市街地の改善を目的として、路地の安全性向上や避難経路の確保、建物の耐震・防火改修の促進、広場空間の整備などに私たちが一緒になって取り組むことで災害時の被害の軽減を図り、安心・安全に暮せるまちづくりを目指すものです。



(2) 防災まちづくり計画の位置づけ・役割

仁和学区における防災上の課題を解決するため、平成24年11月に「仁和学区防災まちづくり協議会」を立ち上げ、京都市や専門家と連携しながら、安心・安全で災害に強いまちづくりの取組をはじめました。

平成24年12月以降、おおむね月に1回のペースで協議会を開催してきました。たくさんの住民の方から数多くのご意見をいただきながら、防災性の向上に必要な取組を検討するとともに、防災まちづくりマップの作成や袋路奥への避難用扉の設置など、具体的な対策にも取り組んできました。

この「仁和学区防災まちづくり計画」は、将来にわたって安心・安全に住み続けられるように、私たちが一緒になって取り組んでいくための計画です。



- ① この計画は、仁和学区に暮らす私たちが主体となって防災まちづくりに取り組んでいくための、私たちみんなで作った計画です。
- ② この計画は、『安心・安全で住みよいまち 仁和』を目標に掲げ、これを実現していくための「目標・基本的な方針」と「具体的取組」、「実現方策」からなります。
- ③ 今後、私たち一人ひとりが防災意識を高めながら、身近にできる防災まちづくりに取り組むとともに、防災上の様々な課題解決に向けて、学区一体となって取り組んでいきます。

2. 仁和学区の概要

(1) 仁和学区の歴史

仁和学区は、上京区の西端に位置し、北は今出川通、南は丸太町通、東は千本通、西は紙屋川までの広範囲におよびます。

古代豪族「秦氏」の集住地域のひとつとされ、平安時代には平安京の中枢部に位置し、御前通以東では、宴の松原、内蔵寮、掃部寮、大歌寮、図書寮、大蔵省、兵庫寮、采女司、正親司、右近衛府、右兵衛府などが所在しました。大内裏外の右京域には官寮町が所在し、『拾芥抄』によれば兵庫町、右兵衛府、図書町、隼人町、采女町などの名が認められます。

天徳4年(960)に内裏炎上。その後しばしば火災に見まわれ、安貞元年(1227)の大火で内裏は再建されることなく、荒れるにまかせられ衰退していきました。

天正15年(1587)に聚楽第が建設され、地域は大きく変貌を遂げました。下ノ森通以東の地域は、一番町から七番町にわたって組屋敷が形成され、城下の町々が出現しました。江戸時代、大將軍は東豎町をはじめ6カ町を形成。西ノ京も17カ町で独自の組町を構成し、西の繁華街として定着していきました。

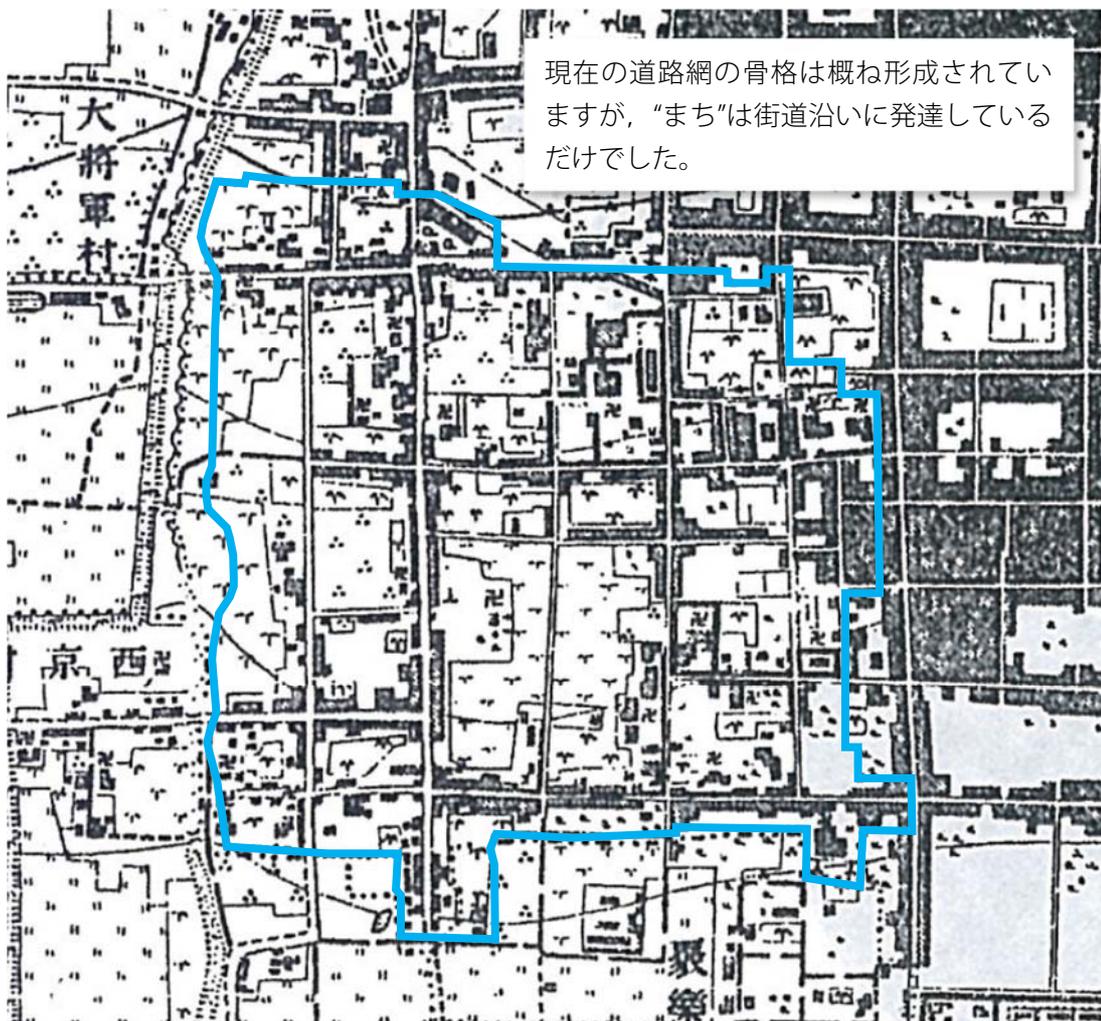


図 明治23年頃の仁和学区の様子 (出典：京都市文化財保護課所蔵)

(2) 仁和学区の基礎データ

① 道の総延長、総本数	総延長：21,221m, 総本数：492 本
② 細街路の延長 (幅員 4.0m未満の道)	11,941m (学区内の道の 56%)
③ 非道路の延長 (幅員 1.8m未満の道など)	4,746m (学区内の道の 22%)
④ 袋路の本数	131 本 (学区内の道の 27%)
⑤ トンネル路地の本数	14 本
⑥ 京町家の軒数	1,377 軒
⑦ 空き家の軒数	389 軒
⑧ 人口, 世帯数 (国勢調査)	平成 17 年：10,844 人, 5,244 世帯 平成 22 年：10,503 人, 5,264 世帯 (-341 人) (+20 世帯)
⑨ 65 歳以上人口, 高齢化率 (国勢調査)	平成 17 年：2,997 人, 27.6% 平成 22 年：3,047 人, 29.0% (+50 人), (+1.4%)

注) ①～④, ⑥～⑦は京都市調べ ⑤は協議会調べ

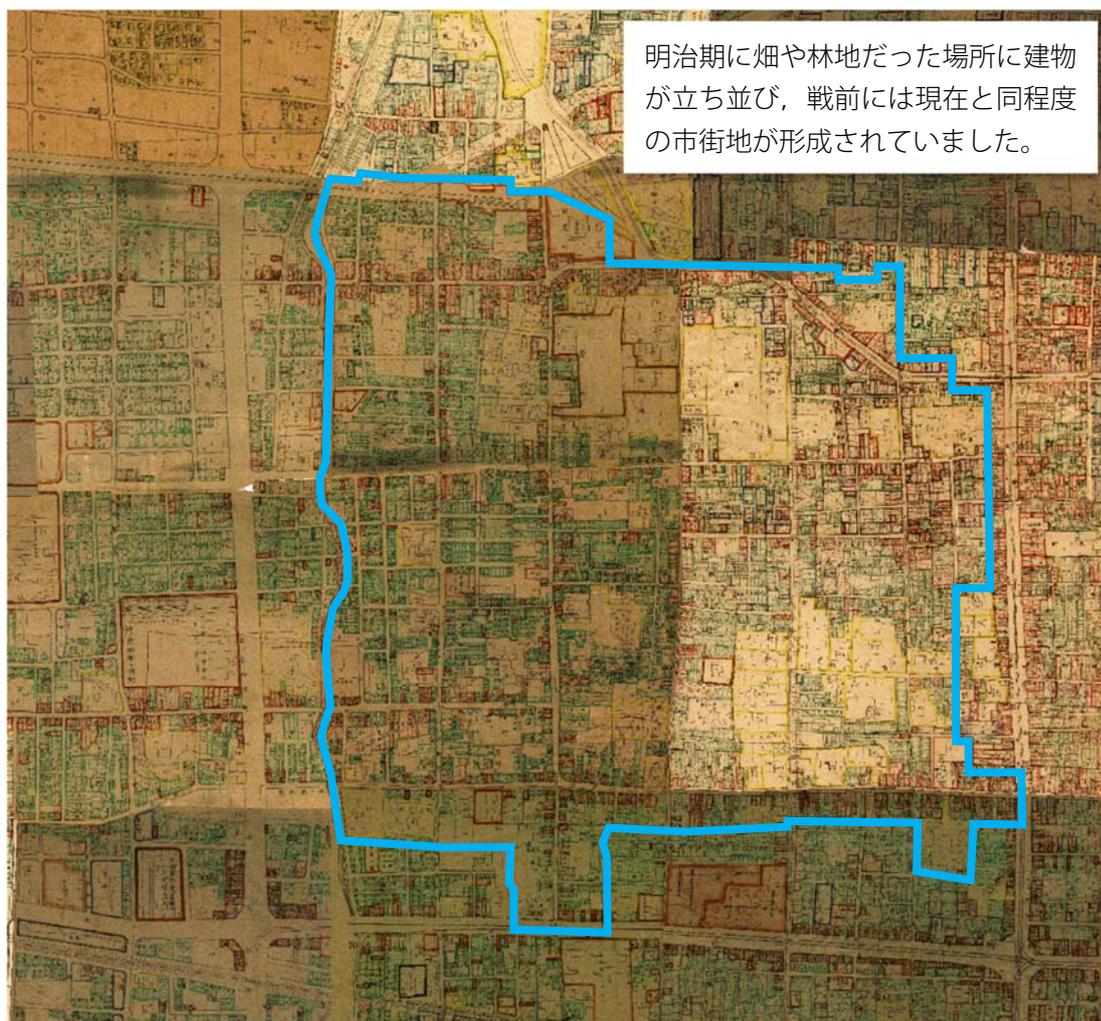


図 戦前の町並みの様子 (出典：京都市明細図, 所蔵：京都府立総合資料館)

(3) 仁和学区の防災上の現状・課題

まちあるきを通じて130箇所の路地を点検したほか、2回のブロック別ワークショップやアンケート調査などにより住民の皆さんからのご意見を伺った結果、仁和学区における様々な防災上の課題が分かりました。

『道』に関すること

- ・仁和学区は、四方を京都市の幹線道路に囲まれ、学区内は、仁和寺街道や御前通などの主要な道路が碁盤目状に通っています。
- ・主要道路に囲まれた街区の中には、幅員4m未満の道が多く、延長の長い路地や幅員1.8m未満の狭い路地も随所に見られます。
- ・袋路やトンネル路地（路地の入口部がトンネル状に覆われた路地）も多く、狭い路地が複雑に入り組んでいる地域があります。
- ・袋路奥に設置されている非常用扉は、施錠等により開けられない箇所が見られます。
- ・段差のある路地や老朽化したブロック塀も見られます。
- ・このほか、ものが雑然と置かれている路地、狭い路地での駐車車両が見られます。



課題① 緊急車両の通行や避難路としての利用が困難な道が多く、災害時の避難や消火・救出活動が遅れる可能性があります。

課題② 災害時に狭い路地を通して避難する人が多く、路地が塞がれるなどにより避難できなくなる可能性があります。

『建物』に関すること

- ・京町家が数多く残っており、歴史的な風情が感じられます。
- ・古い木造家屋やトンネル路地、老朽化したブロック塀が多く、古い木造家屋が密集している地域が随所に見られます。
- ・特に、狭い路地に面する建物では、建築基準法の制限で建替え等が困難なこともあり、更新が進んでいません。
- ・空き家が増加しており、放置されて危険な状態のものも見られます。高齢化の進展等に伴い、今後も空き家の増加が予想されます。



課題① 耐震性や耐火性が不足する建物は、自分の身に危険性があるだけでなく、避難経路や緊急車両の進入路を塞ぐ、火災時の延焼などの可能性があります。

課題② 放置された空き家は、倒壊により避難経路を塞ぐ可能性が高いだけでなく、屋根や壁が崩れるなどの日常的な危険性、防犯や景観上の問題もあります。

『まち』に関すること

- ・仁和学区では、公園の数が少なく、住民が日常的に集まれる身近な広場空間もほとんどありません。
- ・古い歴史を有する仁和学区には、敷地の広い寺院が数多くあります。
- ・高齢化の進展に伴い、災害時要配慮者が増えています。



課題① 災害時の一時避難場所や火災時の延焼防止などとして有効な空地が不足しています。

課題② 高齢者世帯が住む家は古い木造家屋の場合が多く、また、一人での避難が困難であるため、狭い路地では特に危険性が高くなっています。

3. 防災まちづくりの目標と基本的な方針

防災まちづくりの目標

安心・安全で住みよいまち 仁和

仁和学区には、平安京時代の栄華を偲ばせる町割の中に、昔ながらの路地や町家が数多く残り、そこに私たちの暮らしやコミュニティが息づいています。

一人ひとりが防災の意識を高め、仁和の個性を大切にしつつ、路地や建物の安全性向上、学区全体の防災性の向上にみんなで取り組み、災害に強く、安心・安全に住み続けられるまちを目指しましょう。



基本的な方針

道に
関すること

- ①災害に強い道づくりを進めましょう
- ②避難しやすい道づくりを進めましょう

建物に
関すること

- ①災害に強い家づくりを進めましょう
- ②空き家に関する取組を進めましょう

オープンスペース
に関すること

- ①既存の空地进行をうまく活用しましょう
- ②まちなかに広場を増やしましょう

コミュニティ
に関すること

- ①災害時の対応を共有しましょう
- ②地域のコミュニティをしっかりと築き、みんなで支え合いましょう

まち
+
コミュニティ

- ①仁和らしさを大切にし、住みやすいまちにするためのルールをつくりましょう

4-1. 具体的な取組（学区全体計画）

（1）道に関すること

基本的な方針

①災害に強い道づくりを進めましょう

仁和学区には広い道が少なく、災害時に道が塞がれて、避難や消火・救出活動が困難になるおそれがあります。災害時の防災活動だけでなく、住民生活の中心となる道の防災性を高めます。

②避難しやすい道づくりを進めましょう

仁和学区には路地が多く、災害時には狭い路地を通して避難する人がたくさんいます。路地の雰囲気大切にしつつ、誰もが避難しやすい安全な道づくりを進めます。

具体的な取組

①-1 仁和学区を取り囲む幹線道路としっかり繋ぐ

仁和学区を取り囲む広域的な幹線道路を「広域防災軸」と位置づけます。

緊急車両等が広域防災軸から学区内へ進入するために、特に入口部分の道の安全性を高めます。

①-2 防災の軸となる道をしっかりつくる

広域防災軸を東西・南北につなぐ道を「仁和防災軸」と位置づけます。

緊急車両の通行、仁和小学校への避難経路、延焼防止帯として、幅員4m以上を確保するとともに、沿道建物等の耐震・防火改修を優先的に進めます。

①-3 防災軸を補完する道を確保する

仁和防災軸が塞がれた場合に代替として機能するなど、仁和防災軸を補完する道を「補助防災軸」と位置づけます。

既存の道の安全性を高めつつ、特に防災軸が不足する地域において、沿道建物の耐震・防火改修や路地の拡幅を進め、防災軸を形成します。

②-1 避難経路を確認する

自分の家から各町内の集合場所までの道を実際に歩いてみるなど、避難経路を一人ひとりが確認します。

②-2 路地を適正に管理する

路地はみんなの避難経路であることを意識し、一人ひとりが路地の整理整頓を行います。また、路地を適正に管理するためのルールづくりに、路地にお住まいの方々と取り組みます。

②-3 避難経路の安全性を高める

路地始端部や路地沿いの建物、トンネル路地、ブロック塀などが倒壊すると避難経路が塞がれるため、一人ひとりが耐震・防火改修に取り組みます。

避難上の問題がある袋路や段差のある路地では、路地奥への避難用扉の設置やバリアフリー化などに路地にお住まいの方々が一緒に取り組みます。

②-4 路地を広げる

仁和らしい町並みを大切にしつつ、建替え時に建物を道路から後退し、将来的に路地の幅員を広げていきます。

(2) 建物に関すること

基本的な方針

① 災害に強い家づくりを進めましょう

仁和学区には古い建物が多く、地震や火災に対する不安があります。自分の身は自分で守ることを基本に、一人ひとりが建物の安全性を高めることで、学区全体の防災性を高めます。

② 空き家に関する取組を進めましょう

高齢化の進展等に伴って空き家が増えており、防災や防犯上の不安につながっています。空き家を適正に管理し、防災やまちづくりの資源として有効に活用します。

具体的な取組

①-1 自分の家の安全性を点検する

建物の耐震性は建築された年代によって異なり、一般的に古い建物ほど倒れやすい状況にあります。

まずは自分の家の状態を知ることが重要であり、専門家による耐震診断を受けるなど安全性を点検します。

①-2 建物の耐震・防火改修に取り組む

耐震性・耐火性の不足した建物は、いざという時に自身の身に危険を及ぼすことから、一人ひとりが耐震・防火改修に取り組めます。

①-3 建替え等をしやすくする地域のルールづくり

路地は仁和学区の町並みの特徴の一つですが、建築基準法の制限で建替え等が困難なため、建替え等が進まない要因の一つになっています。

路地・町並みの特色を活かしつつ、建替え等をしやすくするためのルールづくりに向けて、路地にお住まいの方々が一緒に取り組めます。

②-1 空き家を放置しない

空き家は、放置すると傷みが進行し、瓦や外壁が落下する、防犯上の不安があるなど、様々な課題を抱えています。

空き家の所有者は、空き家の長期化の防止に努めます。やむを得ない場合には適正な管理を行い、これが困難な場合には除却します。

②-2 空き家を把握し見守る

空き家は、個人の問題だけではなく、コミュニティなど地域の課題として考えることが重要です。

空き家は管理が行き届きにくいため、今後空き家となる可能性のあるものも含めて各町内で空き家を把握し、空き家所有者に注意を促すなど、その見守りに取り組めます。

②-3 空き家を地域で活用する

空き家は問題ばかりではなく、地域の資源として捉えることが重要です。

そのために、新たな居住者の受け入れの場としての空き家流通、地域住民の交流の場としての空き家活用などに地域で取り組めます。

(3) オープンスペースに関すること

基本的な方針

① 既存の空地进行うまく活用しましょう

オープンスペース（空地）には、災害時の避難場所や防災活動の場となる、延焼を防止するなどの機能があります。学区全体の防災性を高めるため、今ある空地进行積極的に活用します。

② まちなかに広場を増やしましょう

仁和学区には公園が少なく、寺院などが近くにない地域もあります。地域の防災性を高めるため、まちなかに広場空間をきめ細かく増やしていきます。

具体的な取組

①-1 オープンスペースの防災機能を高める

公園は、日常の遊び場やコミュニティづくりの場としてだけでなく、災害時には救出救護活動や消火活動などの地域住民による災害対応を行う場となるため、防災倉庫や防災用井戸を設置するなど、公園をうまく活用します。

仁和小学校は、防災資機材を充実するなど、避難所や地域の防災拠点としての機能を高めます。

①-2 寺院などを地域に開かれた空地として活用する

仁和学区にある公園は3箇所のみですが、敷地の広い寺院などが数多く立地していることが特徴です。

寺院などの理解と協力を得ながら、避難場所や避難経路などの防災に役立つ空地としての活用に向けて、地域で一緒に取り組みます。

②-1 空き地を有効に活用する

身近な空き地は、所有者の協力を得て、身近な防災活動や住民どうしの交流の場など、町内にお住まいの方々のための広場空間として活用します。

②-2 空き家を有効に活用する

長く使われず老朽化が進んだ空き家については、所有者の協力を得て除却し、その跡地を身近な防災活動や住民どうしの交流の場など、町内にお住まいの方々のための広場空間として活用します。

一口メモ

「まちなか commons 整備事業」

避難地の確保や火災時の延焼防止等を目的とする広場「まちなか commons」の整備に対する市の助成制度。



(4) コミュニティに関すること

基本的な方針

①災害時の対応を共有しましょう

いざと言う時に慌てることなく、一人ひとりが迅速・的確に行動することが重要です。地域の災害対策を円滑に行うため、あらかじめ町内単位のルールを共有して取り組みます。

②地域のコミュニティをしっかりと築き、みんなで支え合いましょう

自分の身は自分で守ることが基本ですが、特に災害時要配慮者に対しては地域での支え合いが不可欠です。そのために必要なことに日頃から取り組みます。

具体的な取組

①-1 各町内の集合場所を再確認・周知する

防災まちづくりマップ等を活用し、一人ひとりが自分の町内の集合場所を再確認します。

各町内の集合場所の周知と住民の方々の防災意識の高揚を図るため、集合場所に案内板を設置するなどの取組を進めます。

①-2 災害活動の場として集合場所の機能を高める

各町内の集合場所は、互いに協力し合って、安否確認や災害活動を行うために集まる場所です。

各町内の集合場所の機能を高めるため、防災器具等を設置するなどの取組を町内単位で進めます。

①-3 避難に関する地域のルールを共有する

災害時の連絡体制、災害時要配慮者や集合場所・避難所までの距離が遠い方の避難誘導のあり方などについて、町内単位で話し合い、基本的なルールとして共有します。

②-1 一人ひとりが防災に対する意識を高める

災害に強いまちづくりを進めるためには、地域にお住まいの方々の理解と協力が不可欠です。一人ひとりが防災意識を持つとともに、地域で積極的なPR活動を行います。

②-2 地域の防災力を高める

災害時の被害を軽減するためには、日頃からの取組が重要です。

災害時要配慮者の把握、情報伝達や安否確認の方法の確立、継続できる防災リーダーの育成、効果的な防災・避難訓練の実施などにより、日頃から地域の防災力を高めます。

②-3 地域のコミュニティを高める

高齢化の進展、マンション・アパート住民の増加などを背景に、住民どうしのつながりが弱まりつつあります。

災害時にみんなで支え合える環境をつくるため、日頃からの近所付き合いを大切にする、自治会への加入を促すなど、顔の見える地域づくりを進め、地域のコミュニティを高めます。

(5) まち + コミュニティ

基本的な方針

① 仁和らしさを大切にし、住みやすいまちにするためのルールをつくりましょう

仁和学区が抱える防災上の課題は、路地や建物、オープンスペース、コミュニティ等の状況によって異なり、個別の対策では課題解決が困難な場所もあります。路地や建物ごとの個別の取組を進めつつ、みんなで話し合いながら、一体的な課題解決に向けて取組めます。

具体的取組

①-1 地域特性に応じた防災対策を連携して進める

個別の路地や町内単位の取組では解決が難しくても、隣り合う路地や町内と連携すれば解決できる課題もあります。

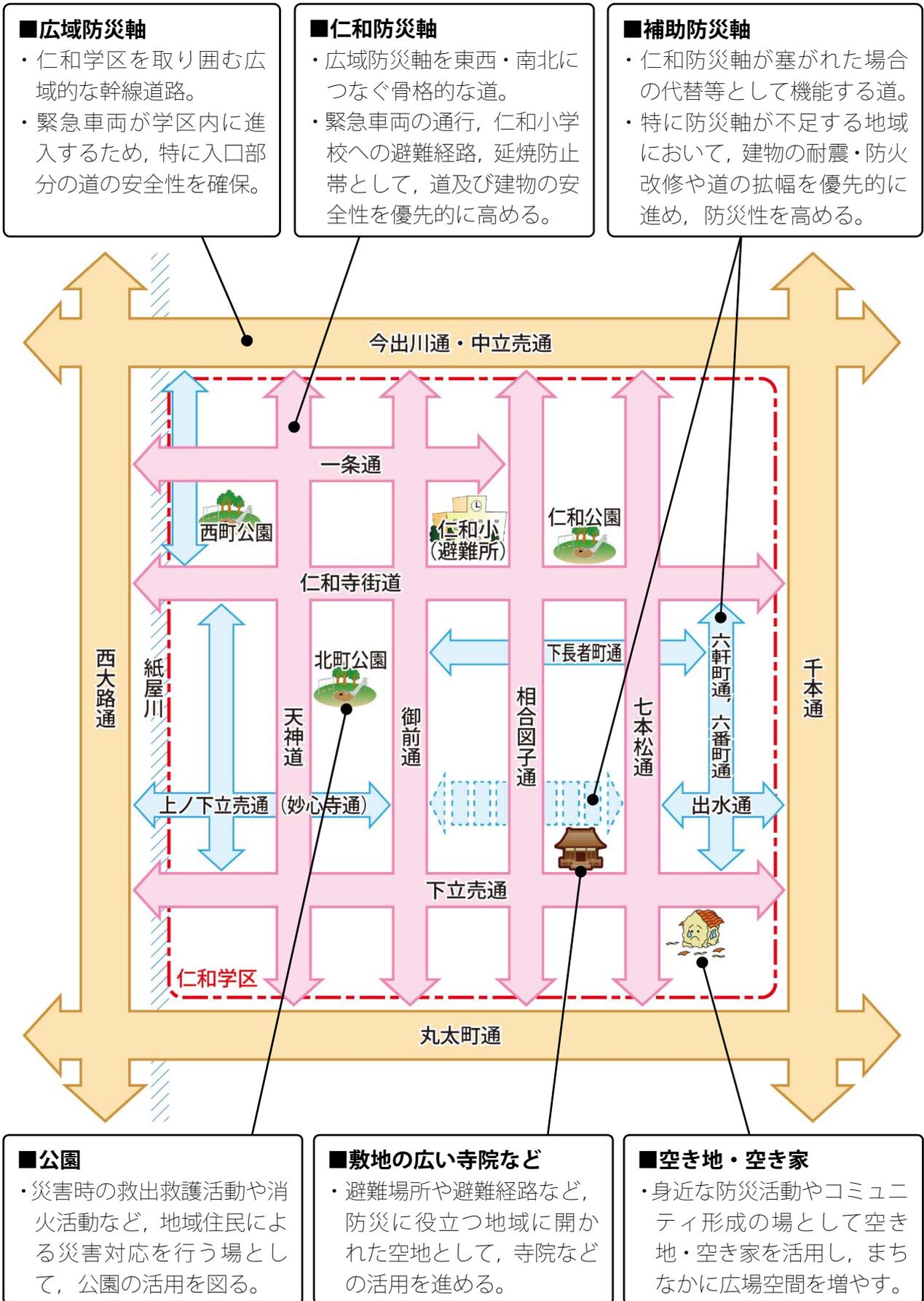
課題解決に向けて路地や町内の枠を超えてみんなで話し合い、地域特性に応じた防災対策を行っていきます。

①-2 面的な対策に取り組む

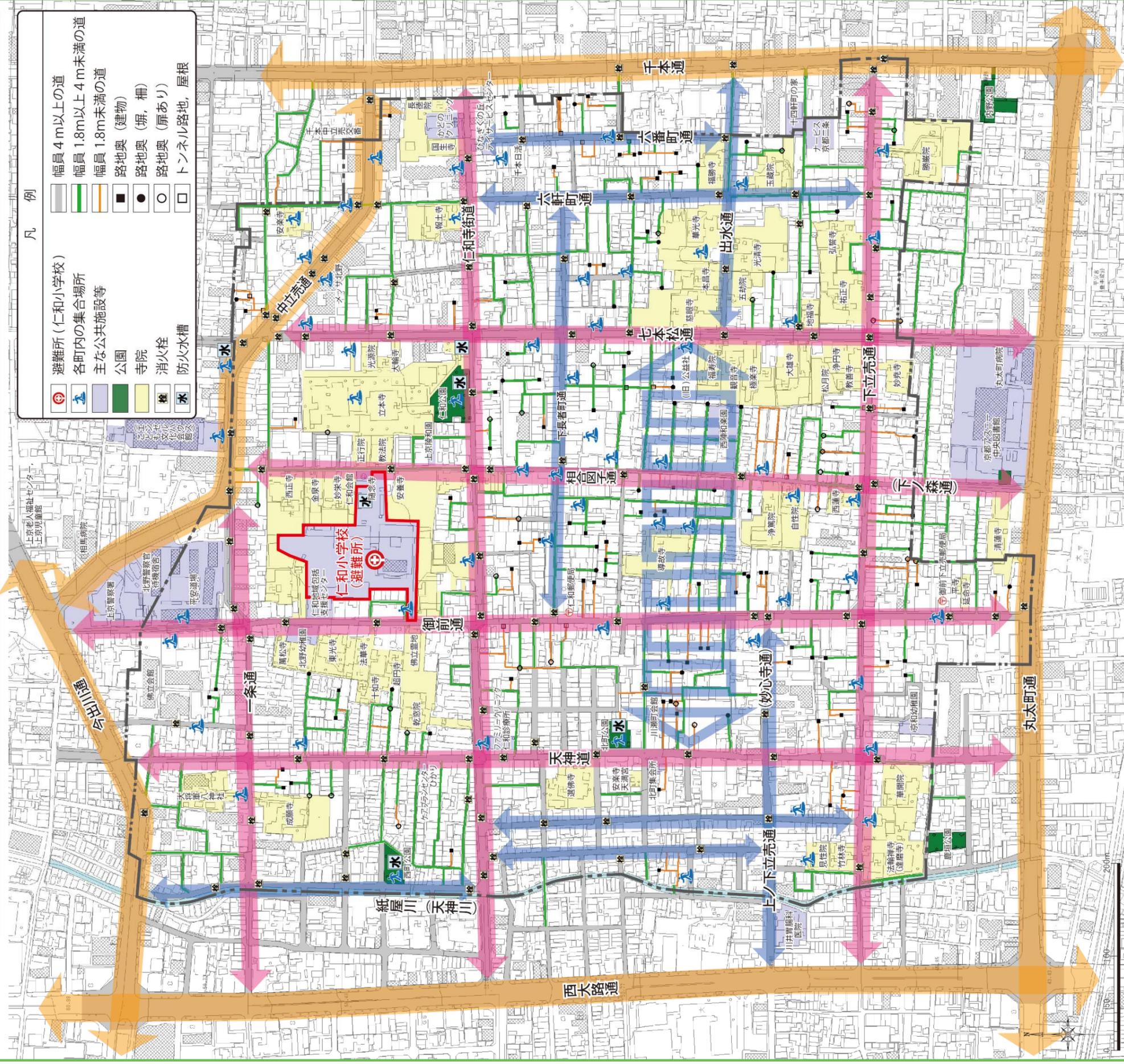
狭い路地（特に袋路）や古い建物等が入り組んでいる地域では、路地や建物などの個別の対策では抜本的な防災性向上が期待できないことも想定されます。

防災性や町並み・住環境の向上に向けて地域で話し合い、区画整理などの手法を用いながら、面的な対策を検討します。

防災まちづくり計画図（学区全体から見た軸とオープンスペースの考え方）



仁和学区防災まちづくり計画 学区全体計画図



- ### その他の取組 (抜粋)
- **避難しやすい道づくり**
 - ・安全な避難経路の確保
 - ・路地の適正管理 等
 - **災害に強い家づくり**
 - ・建物の耐震・防火改修
 - ・建替えのルールづくり 等
 - **空き家に関する取組**
 - ・空き家の適正管理・活用
 - **災害時の対応を共有する**
 - ・集会所の確認, 機能強化
 - ・集合に関するルール 等
 - **みんなで支え合う**
 - ・地域防災力の向上
 - ・地域コミュニティの向上 等

凡 例		具体的な取組	
道	<ul style="list-style-type: none"> 広域防災軸 仁和防災軸 補助防災軸 	<ul style="list-style-type: none"> 防災軸となる道をしっかりとつくる 防災軸を補完する道を確認する 防災空地としての公園機能を高める地域に開かれた空地として活用する 空き地や空き家を有効に活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時における緊急車両の進入路や仁和小学校への主要な避難経路となる重要路線として、幅員4m以上を確保するとともに、沿道建物の耐震・防火改修を優先的に進めます。 仁和防災軸の代替となる道として、特に防災軸が不足する地域において、建物の耐震・防火改修や道の拡幅を優先的に進めます。 地域住民による救出救護活動や消火活動等の災害対応等の場として、防災倉庫を設置するなど公園をうまく活用します。 寺院などの理解と協力を得ながら、避難場所や避難経路などの防災に役立つ空地として活用します。 空き地や建物除却後の跡地を有効に活用して、身近な防災活動や地域住民のコミュニティ形成の場となる広場空間を増やしていきます。
オープンスペース	<ul style="list-style-type: none"> 公園 寺院など 空き家・空き地 		

4-2. 具体的な取組（エリア別計画）

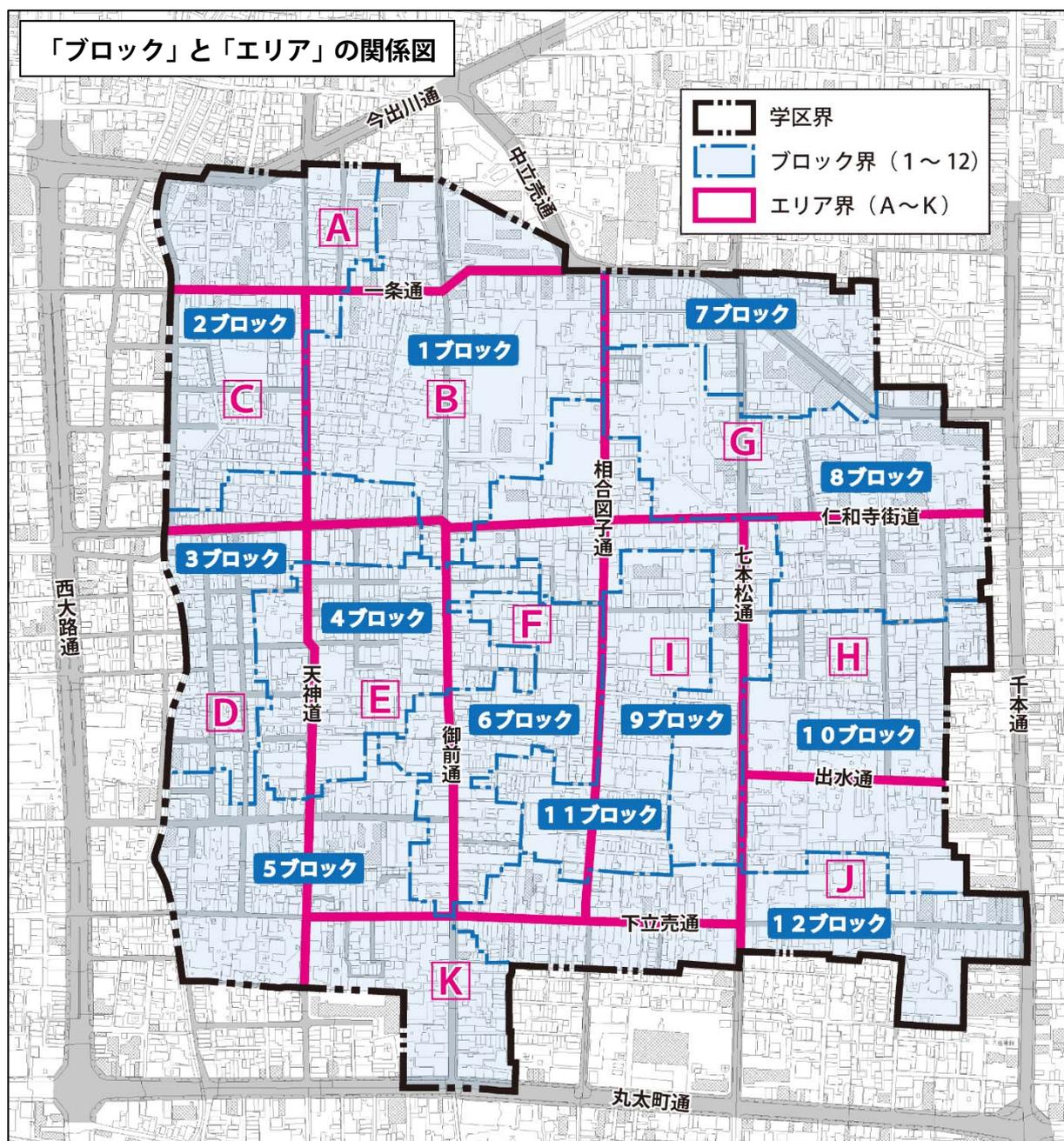
（1）エリア別計画とは

仁和学区の市街地形態は、仁和寺街道や下立売通、七本松通や御前通などの主要な道路が東西南北に貫き、碁盤目状の大きな町割（街区）を形成していることが大きな特徴です。

全体計画では、これらの主要道路を防災軸と位置づけ、防災性の向上を優先的に進めることとしていますが、防災軸で囲まれた区域内では、様々な防災上の課題を有しています。

それぞれの区域が有する課題は、道や建物の状況などによって特徴が見られるとともに、コミュニティの単位である町内会やブロックが複雑に入り組んでおり、町内会やブロック単位の取組では課題解決が困難なものも見られます。

そこで、防災軸で囲まれた区域を一つのエリアとして捉え、エリア全体の防災性の向上に向けて、町内会やブロックの枠を超えて取り組んでいきます。



5. 実現に向けて

(1) 防災まちづくりを推進する市の支援制度

安心・安全で災害に強いまちづくりに向けて、京都市では様々な支援制度を設けています。これらの制度を一人ひとりが、あるいは路地・町内単位で積極的に活用し、地域の防災性を高めていきます。

道の途中にある建物やブロック塀が古くて倒れそうだわ…



身近な場所に小さくても広場があると安心なのに…



行き止まりの道は入口が塞がれると逃げられないわ…



広い道に早く逃げられると安心なんだけど…



👍 古いブロック塀等を改善したい！

・路地に面する古いブロック塀等の除却や塀等への入替えに要する費用を補助。

※補助の対象

ブロック塀の除却、板塀、生垣の設置



古いブロック塀が新しくなるね！

👍 古くなった木造建築物を除却したい！

・古くなった木造建築物の除却に要する費用を補助（跡地活用の要件あり）。

※上限 60 万（補助率 2/3）

古くなって困っていたから、補助は助かるね！



👍 身近な広場を整備したい！

・空き地や建物除却後の跡地を利用し、身近な防災ひろばの整備に要する費用を補助。

※建物除却の場合：上限 100 万（補助率 9/10）

※広場整備の場合：上限 200 万（補助率 100%）

普段はみんなが気軽に集まれる場所になるね！



👍 袋路の奥から逃げられるようにしたい！

・袋路の奥に緊急避難のための非常用扉等を設置する工事に要する費用を補助。

※上限 30 万（補助率 100%）



入口が塞がれても逃げられるね！



👍 袋路入口の道幅を広げたい！

・袋路入口の道幅を広げるため、樹木や塀等の撤去・移設、舗装や側溝の整備等に要する費用を補助。

※補助上限：50 万（補助率 100%）

入口が広いと安心だよ！



👍 袋路入口の建物を地震や火事に強くしたい！

・袋路入口部にある建物の耐震・防火改修工事に要する費用を補助。

※補助上限：250 万（補助率 100%）

トンネル路地だけでも補助が受けられるよ！



👍 建物の安全性を点検したい、地震や火事に強くしたい！

・建物の耐震診断に対する専門家の派遣、木造住宅の耐震改修工事に対する助成。

(2) 各主体の役割, 取組の体制と具体的な取組の例

『安心・安全で住みよいまち 仁和』の実現に向けて, 協議会, ブロック, 町内会, 個人, 行政等が担うべき役割と具体的な取組を認識し, 各主体が相互に連携・協力を図りながら, 防災まちづくりを進めます。

【各主体の役割】

■防災まちづくり協議会

- 学区全体・各ブロックの防災まちづくりのコーディネート
- 学区住民に対する防災まちづくりの意識啓発

- ・学区全体の防災まちづくりの検討, 実践, 進行管理
- ・防災まちづくりに関する意識啓発
- ・行政等とのネットワークづくり

■ブロック (12 ブロック)

- エリア別計画の推進
- 各町内会間の連携・コーディネート

- ・各町内会における防災上の問題・課題の把握
- ・防災対策を実施すべき箇所の掘り起こし
- ・町内会の枠を超えて取り組むべき課題への働きかけ

■町内会 (78 カ町)

- 町内単位の防災まちづくりの取組

- ・各町内における防災情報の把握
- ・地域住民に対する防災まちづくりへの理解と参加の呼びかけ
- ・各町内会の実情に応じた防災まちづくりのルールづくり

■個人 (地域住民)

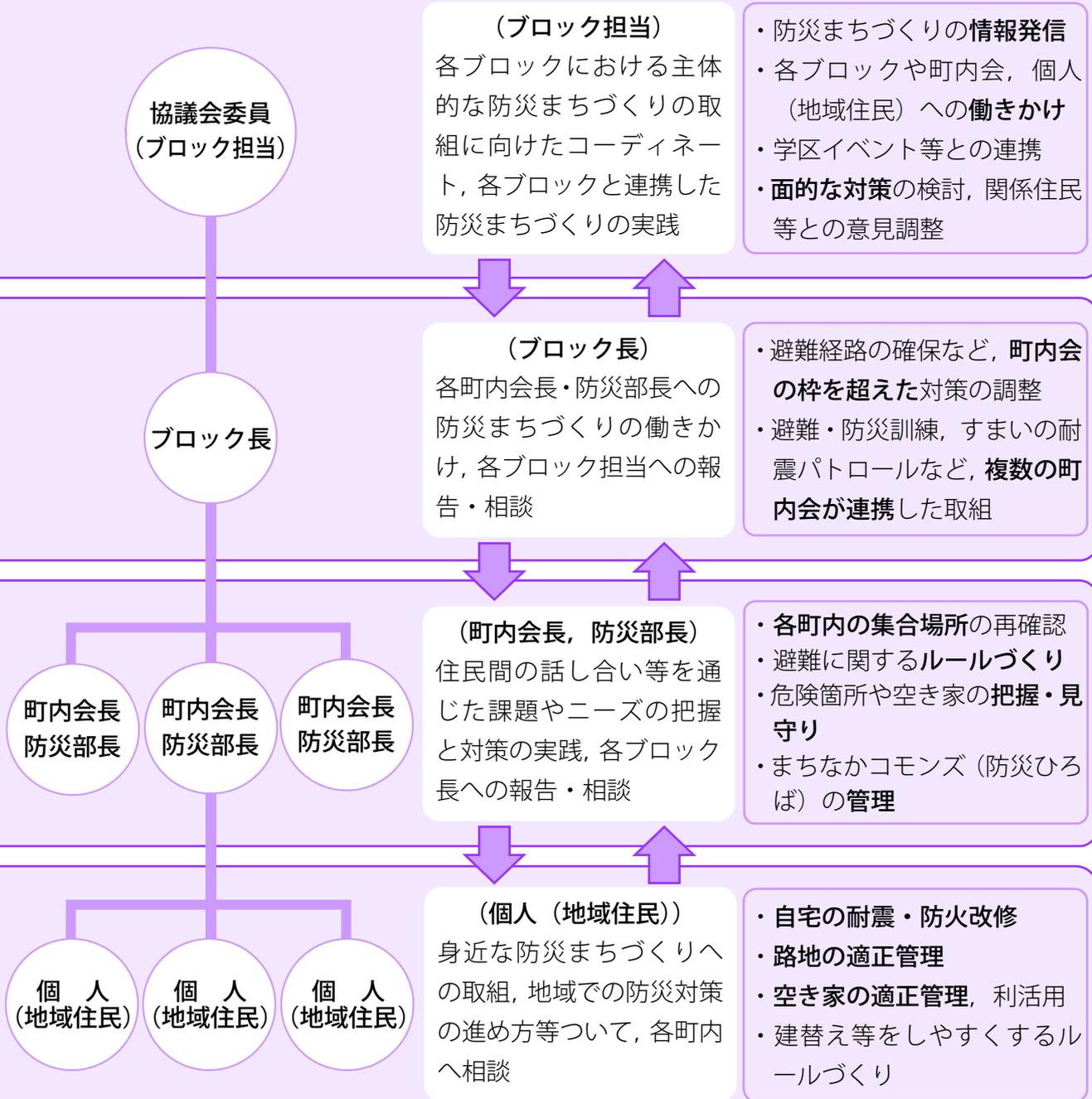
- 路地単位や個人での身近な防災まちづくりの取組

- ・防災まちづくりに対する日頃からの意識づくり
- ・自分の身を自分で守るための取組
- ・ブロックや町内会が実施する防災まちづくりへの参加・協力

- 行政等 (市役所, 区役所, 消防署, ^{みやこ}京 安心すまいセンター, 専門家など)
- 協議会の取組に対する支援

【取組の体制】

【具体的な取組の例】



支援 ⇕ 協働

- ・行政等と連携した防災まちづくり活動への支援
- ・防災まちづくり活動への助言・指導

- ・密集市街地・細街路対策事業の推進
- ・専門家等の派遣

6. 資料編

(1) 防災まちづくり協議会の取組経緯

①協議会メンバー（平成27年3月現在）

会長：上岡 修	1 ブロック担当：山内 一広（～平成25年）
副会長：山本 隆一	吉田 鮎子（平成26年～）
副会長：古川 雅一	2 ブロック担当：水間 義之
	3 ブロック担当：渡辺 正博
	4 ブロック担当：井上 晁
	5 ブロック担当：加藤 敏
	6 ブロック担当：四辻 亮司
	7 ブロック担当：負野 光一郎
	8 ブロック担当：鶴殿 忠秋
	9 ブロック担当：和田 はるみ
	10 ブロック担当：石井 和男
	11 ブロック担当：酒井 悦子
	12 ブロック担当：福井 滋治



②計画策定までの経緯

開催日		取組内容
平成24年度	11月	●「仁和学区防災まちづくり協議会」立ち上げ ・会長：上岡修，副会長：山本隆一，古川雅一 ・ブロック担当：各1名（計15名）
	12/19	●第1回協議会
	1/20	◇第1回まちあるき
	1/31	●第2回協議会
	3/2	◇第2回まちあるき
	3/15	●第3回協議会
平成25年度	4/25	●第4回協議会
	5/27	●第5回協議会
	6/24	●第6回協議会
	7/2	◇第1回ローラー作戦
	7/29	●第7回協議会
	9/2	●第8回協議会
	9/30	●第9回協議会
	10/17	◇第2回ローラー作戦
	10/24～ 11/29	◇ブロック別ワークショップ ・10/24（1，2，3ブロック） ・10/31（4，5，6ブロック） ・11/21（7，8，10ブロック） ・11/29（9，11，12ブロック）
	12/9	●第10回協議会
	1/21	●第11回協議会
	2/19	●第12回協議会
	3/17	●第13回協議会
平成26年度	4/24	●第14回協議会
	5月	◇防災まちづくりマップの配布 ・ブロック別に作成し，全戸配布
	5/26	●第15回協議会
	6/16	●第16回協議会
	7/5～ 7/22	◇アンケート調査 ・回答数：1,498件
	7/14	●第17回協議会
	8/25	●第18回協議会
	9/23	◇地域ローラー作戦
	9/29	●第19回協議会
	10/12	◇仁和まつり
	10/29	●第20回協議会
	11/26	●第21回協議会
	12/17	●第22回協議会
1/30, 2/6	◇防災まちづくりワークショップ ・1/30（1～6ブロック） ・2/6（7～12ブロック）	
2/26	●第23回協議会	
3/27	●第24回協議会	

延べ130箇所の路地について、安全性や課題を現地で確認。



防災まちづくりニュース第1号

防災まちづくりニュース第2号

すぐにでも対策ができそうな路地（13路線）について住民等の方を戸別訪問し，防災まちづくりの説明と意見交換。



防災まちづくりマップ(素案)を確認するとともに，防災に関する身近な情報や課題等について意見交換。延べ100名が参加。



防災まちづくりニュース第3号

防災まちづくりニュース第4号

防災に対する皆様のご意見を把握し，計画づくりや具体的な対策の実施に反映することを目的に実施。

12ブロックを対象に実施。建物の耐震・防火改修の必要性等を戸別訪問して説明。



防災まちづくりニュース第5号

これまでの取組を紹介。ワークショップやセミナー等も開催。



防災まちづくりニュース第6号

エリア別計画(案)について意見交換し，計画に反映。延べ約50名が参加。



(2) 防災まちづくりに関する住民アンケート調査結果（概要）

地域の防災に対する住民の皆さんの意識やご意見を把握し、計画づくりや具体的な対策の実施に反映するため、アンケート調査を実施しました。

調査期間は平成26年7月5日（土）～7月22日（火）で、1,498名の方から回答をいただきました（回収率は約41%）。

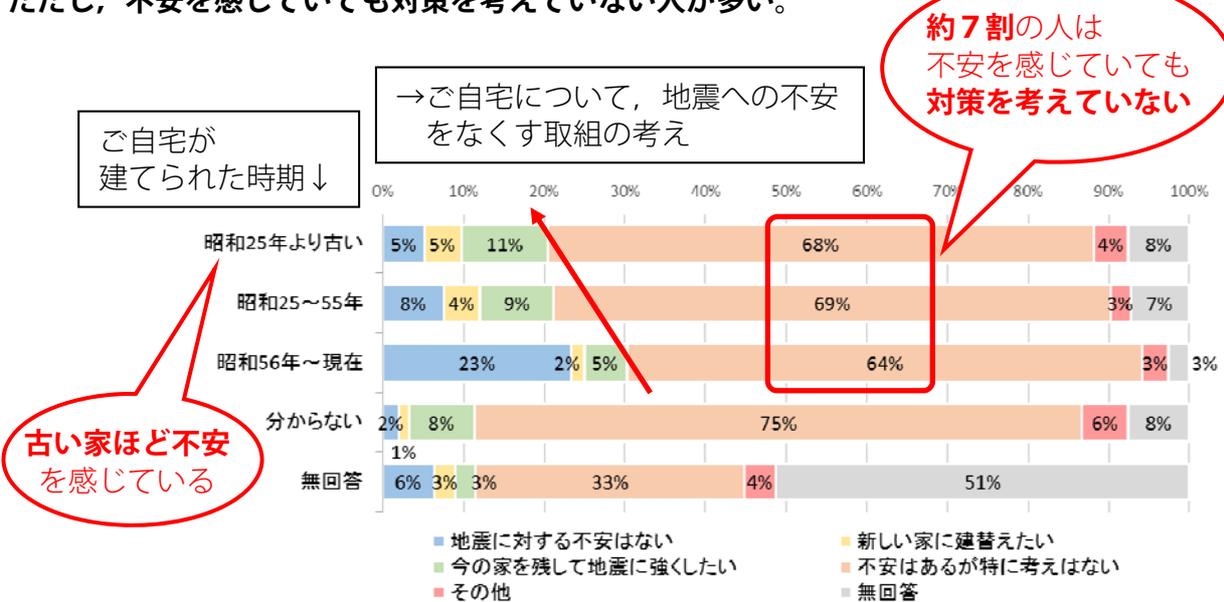
■ 自宅のタイプに関すること

戸建て持ち家の住民からの回答が多く、
マンション・アパート住民からの回答は少ない。



■ 自宅に対する地震への備え・対策に関すること

ご自宅が建てられた時期が古いほど、地震に対する不安を感じている。
ただし、不安を感じていても対策を考えていない人が多い。

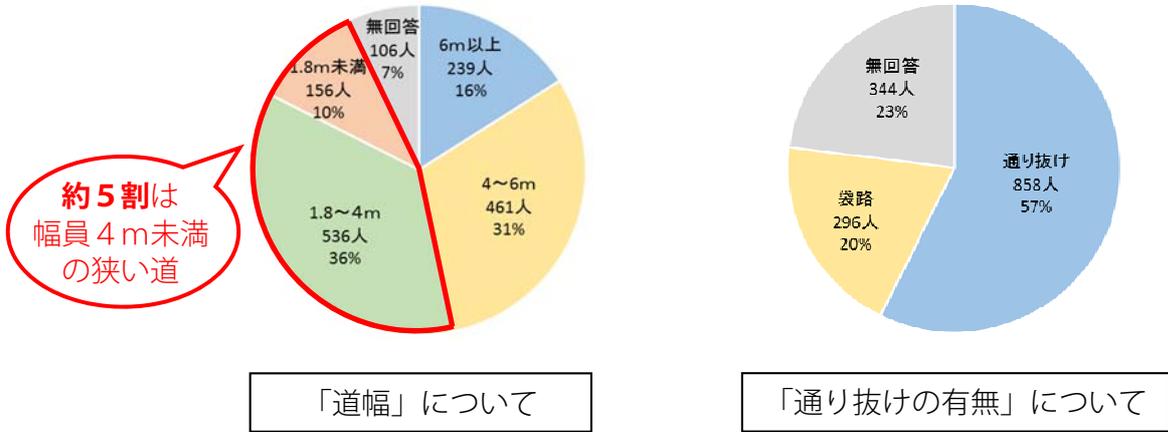


「自宅が建てられた時期」と「地震対策への考え」について

■ 自宅前の道に関すること

自宅の前の道は、約5割が幅員4m未満の狭い道。

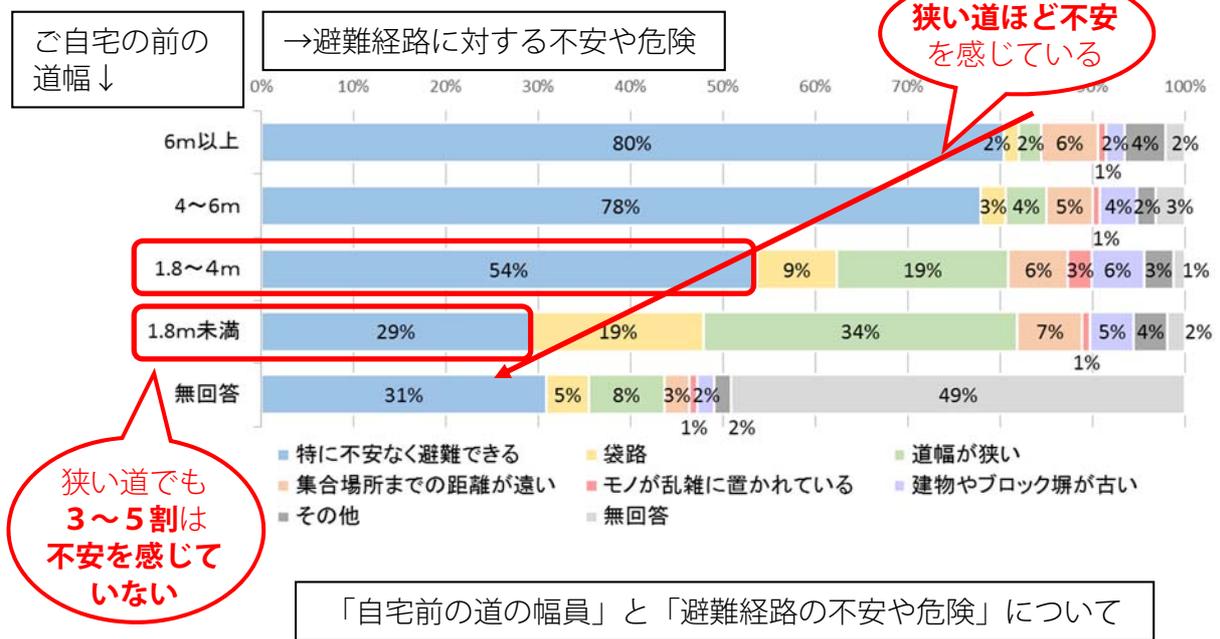
通り抜けている道は約6割で、約2割は袋路（行き止まりの道）。



■ 自宅から「地域の集合場所」までの避難経路に関すること

自宅から各町内の集合場所までの避難経路は、狭い路地ほど不安を感じている。

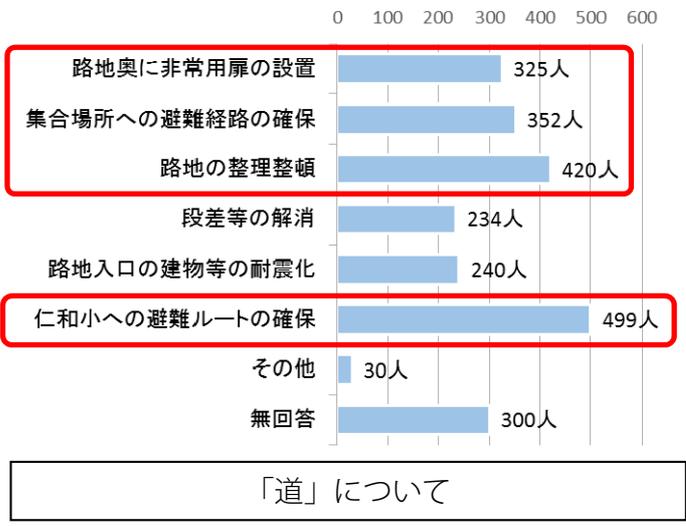
ただし、狭い路地でも不安を感じていない人も多い。



■ 仁和学区の安心・安全を高めるために、特に重要だと思うこと

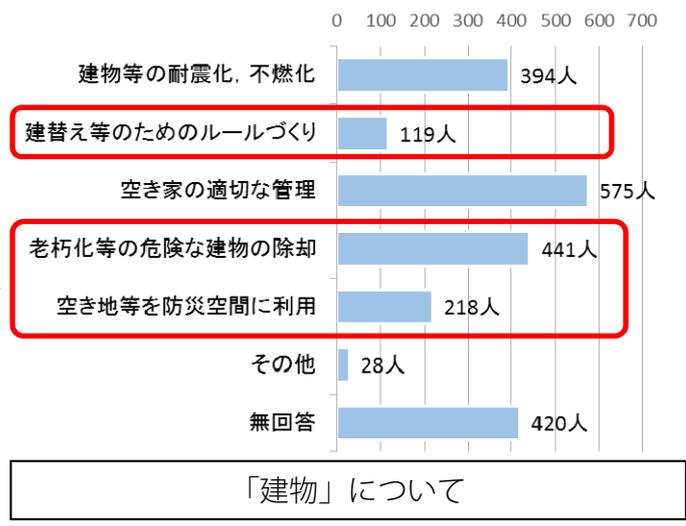
身近な避難経路の安全確保だけでなく、避難所である仁和小学校へ安全に避難したい。

仁和小学校への
安全な道の確保



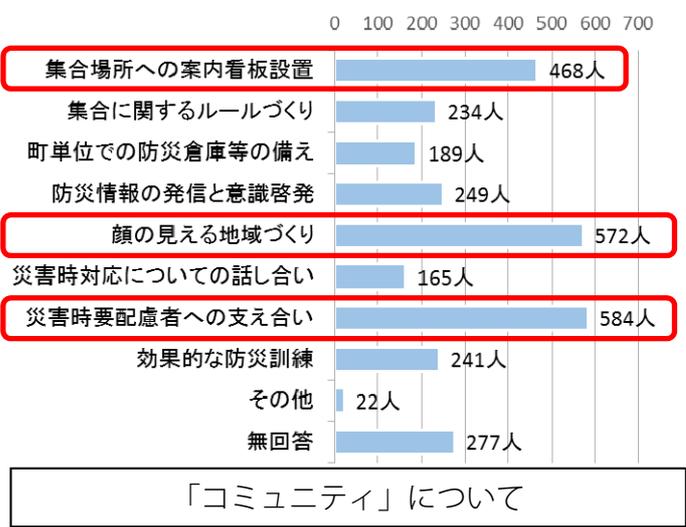
空き家や古い建物に対する関心が高い。また、住んでいる家の安全確保も重要。

空き家や古い建物への
関心が高い



住民間の繋がりが弱くなっていると感じている。また、高齢化に対する不安が大きい。

高齢化やコミュニティ
への不安が多い



仁和学区防災まちづくり計画

～ 安心・安全で住みよいまち 仁和 ～

平成27年5月

発行 仁和学区防災まちづくり協議会
編集 株式会社サンワコン（担当：東，安野）

防災まちづくりにご意見のある方は、お近くの協議会メンバーにお声掛けを
いただくか、仁和会館のポストへ投函をお願いします。